九州文化史研究所所蔵史料の情報化

宮崎 克則：九州大学文学部

重点領域「沖縄の歴史情報研究」の川勝班では、九州大学九州文化史研究所が所蔵する資料の目録データベースを作成することにした。

まず当研究所の系譜を述べておくと、大正 15 年の法文学部教授会において「九州の地が歴史上、文化の源泉地であり、ここに設立された法文学部は、史料調査上もっとも有利である」ことから、史料収集のための調査委員会が設けられたことに始まる。名称を九州文化史研究所とし、戦前には福岡県宮田町四郎丸の庄屋文書「古野文書」や大分県日田市の商人史料「千原文書」等が寄贈され、戦後には「長沼文庫」「元山文庫」「三奈木黒田家文書」などが収集された。現在、九州を中心に大名史料・商人史料・庄屋史料など約 30 万点の記録史料を所蔵しており、順次『九州文化史研究所所蔵文書目録』（1～１９号）として刊行するとともに、『九州文化史研究所紀要』を発刊し、九州地域を中心に歴史文化研究を推進してきた。

今回の「沖縄の歴史情報研究」において、担当した琉球・沖縄に関する史料の目録情報化作業の概要を述べる。

（1）石本家文書

昭和 28 年に購入された石本家文書の旧蔵者は、熊本県天草郡御領の石本家である。同家は江戸時代に幕府領天草において、特権御用商人として大規模な商業活動を展開していた。したがって商家経営・商品流通関係史料が主体であり、九州諸大名をはじめ琉球との貿易にも関与していた。その総数は約 30,000 点、いまだ整理途中であり、これまでに整理の完了した 6,000 点についてデータ入力をおこなった。

（2）長沼文庫

戦前からの本学教授、長沼賢海氏が九州・瀬戸内・北陸・紀州の各地にまたがって収集された写本類であり、水軍・漂流・浦方関係の古文書を主とし、海路図も豊富に残っている。昭和 24 年に寄贈された「長沼文庫」5,000 点の整理は済んでいたが、多少の不備があったので、今回ふたたび原本と照合しながらデータ化をおこなった。

（3）松木文庫

松木文庫は昭和 29 年に長崎市松木長兵衛氏より購入した。松木氏が収集した文書群であり、このなかには長崎平戸町乙名の石本家（天草の石本家の本家に当たる）の旧蔵文書が多く含まれており、その経営や長崎代官領関係、平戸町町政関係史料とともに、唐・オランダ・琉球との貿易関係史料が残っている。総数は 3,000 点ほど。

（4）古賀文庫

古賀文庫は昭和 29 年に長崎市唐島喜徳氏から購入した。もと長崎市の古賀十二郎氏が収集した史料群であり、一部は長崎県立図書館にも所蔵されている。紅毛通詞関係史料をはじめ長崎関係記録および図書等を多数含んでいる。総数は 3,000 点ほど。

以上のデータ化をおこなった。いまだ進行中のものもあるが、基礎データの入力は思いの外たいへんであった。